令和　５年　４月７日
県立相模原支援学校

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

項目	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容 具体的な方策	取　組　の　内　容 評価の観点	校内評価 達成状況	校内評価 課題・改善方策等	学校関係者評価 （３月６日実施）	総合評価（３月22日実施） 成果と課題	総合評価（３月22日実施） 改善方策等
１	教育課程・学習指導	カリキュラムマネジメントの視点に基づいた系統性のある教育課程を編成し、指導の充実を図る	①児童・生徒の実態に応じて、伸ばしたい力を保護者本人と共有し、三つの柱（学びに向かう力・人間性、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等）に基づいてねらいを明確にした授業づくりを行い、達成度等をわかりやすく伝える。	①指導内容表や単元計画表を活用する。 ②授業内容の妥当性と評価方法の検討と検証を、研究授業等を通して行う。 ③授業参観、授業公開、ホームページ等で積極的に学習活動の様子を発信する。	①面談等で伸ばしたい力を共有できたか。 ②個々のねらいを三つの柱に基づいて明確に設定できたか。 ③達成度や成果、活動の様子を面談や授業参観等で発信できたか。	①各学部とも個別教育計画の面談を実施し、児童・生徒のねらいや伸ばしたい力を共有した。 ②三つの柱に基づいた指導略案書式について検討を重ね、２種類の書式を教務班が作成提案した。 ③４月下旬及び８月下旬に個別面談、各学期に１回ずつ授業参観を実施、保護者へ前期の児童・生徒の様子等を伝えることができた。	①三つの柱に基づいた目標と評価等について客観的な視点を検討し追加する。 ②試行を通して目標と評価について共有したかどうかアンケートを実施し、意識の変化や改善点を研究研修班が検証する。 ③２月に個別面談、３学期に授業参観を実施し感想等を集約し参考とする。ホームページで学習活動の様子を各学部別に週１回以上発信し、更新日も記載する。	**学校評価部会** ・学校評価の現在の仕組みは現実的ではない。目標がどれだけ達成されたかを書くのは難しい。学校をよりよくするためには、先生方がどんな工夫をして、どんなことができたかを記述できるとよい。 ・全体的に昨年よりも評価が上がっているので、学校の取組が好意的にとらえられていると思う。 ・どこまでアンケート内容にこたえて、それを目標に設定するべきか迷うこともある。 **保護者アンケートより** 〇個別教育計画は子どもの実態に合わせて作成されている➡　思う 73%、やや思う 24%	・保護者と個々の目標の達成度と成果について、個別教育計画の面談（年３回）や各学部学期１回計３回の授業参観（学習発表）の様子とともに具体的に共有した。 ・ホームページに授業や活動の様子を定期的（各学部月に４回程度）に発信した。 ・教員が学び合う仕組みを作り、約 20 名が参加した。事前事後シートを用いて助言等について振り返り、授業改善への意識の変容や指導力向上に繋げることができた。	・個別教育計画作成では、７月に実施した事例研修会が有効だったので継続する。 ・ねらいを明確にした授業づくりのため三つの柱を反映した目標評価ツールを今後検討したい。 ・感染症の予防策を講じて授業参観を実施したが、回数や方法について業務軽減の観点も含めて検討する。 ・授業の様子が保護者等により伝わるようにホームページやライブ配信を工夫する。 ・教員の学び合いの仕組みを継続していく。
２	児童生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりが、自分やお互いを尊重し、高めあう力を育むための支援・指導を組織的に行う	①教材やＩＣＴ機器を活用し、児童・生徒がお互いの良さを認め合えるよう学習活動の展開等を工夫した授業（支援・指導）を組織的に行う。	①発達段階に応じたコミュニケーション指導の手立てを学部研究や研究授業等で共有する。 ②教育的ニーズに応じたＩＣＴ機器を活用した指導を行う。 ③障害者理解等への正しい知識を確実に身につける。 ④ホームページ等で積極的に学習活動の様子を発信する。	①児童・生徒がお互いの良さを実感できる教材や手立てだったか。 ②教育的ニーズに応じたＩＣＴ機器を活用した指導を行ったか。 ③学習活動の展開を工夫したか。	①小学部では、コミュニケーション課題を設定し、ステージごとの指導を開始した。 ②高等部では体育の授業でクラスやチームで協議を行い、生徒同士でルールを話し合う、作戦を立てる等の活動をとおして、他者との関わりを育んだ。 ③情報広報班では長期欠席者に Google Meet で遠隔教育の実施や校内 LAN 活用による授業及び儀式的行事のライブ中継等、ニーズに応じてＩＣＴ活用を全校に推進している。 ④iPad の活用に関する研修を５回行い、教材作成に関する情報を提供することができた。	①今後実践を積み重ねながら題材一覧表を作成するが、作成するための業務時間創出が課題である。 ②「高齢者疑似体験」（１年）や「妊娠と出産」（３年）など、他者の視点で人権について考える学習を計画した。実施案や指導案を引継ぎ高等部として実態を踏まえた取組にしていく。 ③情報広報班員だけではなく、誰もがＩＣＴ機器の活用ができるように分かりやすい手順の提供などの工夫が必要である。 ④情報広報班が、全教職員対象に研修内容のニーズをアンケートにより調査し、検証する。	**学校評価部会** ・ＩＣＴ活用について「わからない」の回答が多いのは、小学校などでは１人１台のパソコンが配付されて家庭でも持ち帰って使っているが、養護学校はそうなっていないことも原因と考えられる。授業で実際に使っていることを、もっとアピールしてもよいと思う。 **保護者アンケートより** 〇子どもの教育的ニーズに応じた指導や支援が行われている➡　思う 63%、やや思う 30% 〈記述意見〉 ・子どもの理解度等の差がありすぎることがあり、子ども達がそのことを理解しているかできるか難しそうである。	・児童の発達段階別グループでのコミュニケーション指導例を題材一覧表にした。 ・高等部ではパラスポーツ活動で、生徒同士の理解を深め、楽しみながらお互いの良さを認め合い、協力し合う気持ちや仲間を責めない心を育てることができた。 ・ＩＣＴを活用した授業やライブ中継などで、効果的な取り組みができたと教員側は感じている。（アンケートから、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が約 88%だった。）しかし、保護者側は約 55%だったため、今後は活用場面を実際に見ていただく必要がある。	・指導内容の均一化、新たな題材の設定、題材表の充実を図る。 ・学年を超えた関わりやトラブル、LINE や SNS の課題が顕在化してきた。学年に合わせたコミュニケーションの指導とともに、学部全体での生徒についての理解を進めることに力を入れる。 ・ＩＣＴ活用研修は、少人数での開催が効果的であったため、次年度も継続する。 ・ＩＣＴ機器を活用したねらいが明確な授業づくりの研修とＩＣＴを活用した授業等の普及を継続する。
３	進路指導・支援	児童・生徒一人ひとりが、卒業後に地域社会の一員として自分らしく参加できるよう、主体的な活動を促す支援・指導を行う	①児童生徒の自立と社会参加に向けた授業実践を行い、体験してわかったことを本人へフィードバックして主体的で確かな成長につなげる。	①卒業後のイメージを本人、担任、保護者で共有する。 ②実習等の体験をシートに記入して振り返り、実生活の場面で生かすよう支援する。 ③進路に関わる情報発信を十分に行う。	①体験的な学習活動を実践できたか。 ②体験を振り返り、自分自身の成長につなげられるよう支援したか。 ③進路に関わる情報を十分に発信できたか。	①高等部では携帯スマホ安全教室などをとおして他者に不快な思いをさせない適切な使用方法の授業を実施した。 ②分教室では毎週金曜日に職業の社会体験学習で、態度や言葉遣いの意識や外部施設でも一日を通して働くこと等、卒業後を見据えた指導を実践している。 ③進路支援班では卒業生の進路状況や小中学部保護者向けの小さい頃からの進路支援について、ホームページで情報発信を行った。	①人との関わり方やマナー、性教育等の授業での学びを得て生徒の行動が変容したかどうかのポイントを明確にしたい。 ②11/11(金)にホームページに地域の企業等に向けた内容を掲載した。保護者や外部の方が見てよりわかりやすいレイアウトにすることが課題である。	**学校評価部会** ・保護者に対しても、日常的に学校が取り組んでいることを伝えると、安心できてより一緒に取り組めるようになるのではないか。またスマホ教室については、保護者を対象に行うことも考えられる。 **保護者アンケートより** 〇進級や卒業後のイメージを、本人・保護者・担任間で共有できている➡　思う 77%、やや思う 11%	・ポニーの乗馬体験、「社会人の着こなし・身だしなみセミナー」で講話とスーツの着用体験、高齢者体験など様々な体験学習を全学部で計画実施した。特に高等部では、現場実習や職業の社会体験、グループホーム等の見学など、卒業後の生活イメージ（生活に必要な力やお金について）を育む支援ができた。 ・保護者には進路について情報提供や相談等きめ細かく実施できた。	・どの学部でも授業の最後に必ず振り返りの時間を取り、個々の実態に沿って学びの確認をして、定着を図った。次年度も手立てを工夫して継続する。 ・進路支援班による小中学部保護者向けの進路情報の発信を次年度も継続する。 ・小中学部（地域含む）の卒業後のイメージを保護者と共有するため、次年度はＮＰＯ法人に協力を得て「企業と語ろう in さがみはら」を麻溝公民館と 11/22(水)に共催で行う予定である。

項目	視点	４年間の目標 （令和2年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校内評価		学校関係者評価 （３月６日実施）	総合評価（３月 22 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
４	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域等と連携協働した活動の充実を図る	①切れ目ない支援部会と連携し、ボランティア活動や防災対策などセンター的機能も生かしながら地域と協働して互いにプラスになるように取組み、積極的に学校を紹介する。	①株式会社ギオンとの連携を通した交流（ＳＣ相模原を地域で応援しようなどボランティア活動等） ②自治会との連携（防災の取組） ・麻溝公民館との交流 ③橋本高等学校との２校学び合いの推進 ④学校ホームページの充実	①切れ目ない支援部会と連携できたか。 ②地域等と協働して互いにプラスになる活動ができたか。 ③学校の取組を積極的に発信できたか。	①進路支援班では切れ目ない支援部会において、具体的な取組の流れやそれぞれの団体と個別に打合せをする機会を作ることについて、承認を得られた。 ②高等部では職業班（クリーン班、受注リサイクル班）が地域とのつながりの中で取組を進めている。 ③教育相談班では保護者向けお知らせを作成し、本校の教育相談の取組を発信した。	①今後は、明らかになったニーズを班員内で周知し、各学部の実践につなげていく。 ②高齢者施設との直接交流は難しいため、制作物を届けに行くこと計画した。コロナ禍での交流に関しては継続課題である。 ③本校のホームページ内に、教育相談に関する情報を掲載する「さがみはら相談ねっとわーく」を 12/9（金）に掲載した。	**学校評価部会** ・地域の関係機関との連携では「わからない」の回答が多かった。公民館としても、もっと保護者に情報提供していきたい。 ・公民館としては、ぜひもっとたくさんの先生方や児童生徒に使ってもらいたい。たとえば地域の小中学校では地域探検で訪れてもらっている。会議室を授業で使ってもらってもよいし、公民館を使っているサークルとの交流もできると思う。 ・学校でできることは限られていることをまず認識して、学校でできないことは地域にまかせることが必要になる。そのためにはコーディネーターの役割が必要であり、それは学校ではなく当面は行政が行うことが望ましい。例えば社会教育主事やスクールソーシャルワーカーがよいのではないか。コミュニティスクールは始まったばかりであり、特に通学区域の広い特別支援学校では困難さがあるが、考えながら進んでいくしかない。 **保護者アンケートより** 〇本人や保護者からの相談について、丁寧に対応されている　➡　思う 68%、やや思う 27% 〈記述意見〉 ・学校の支援の専門性をもっと地域に広げていってほしい。	・地域の企業・事業所に向けて受注作業や現場実習に関する募集のお知らせを発信した。 ・地域のゴミ問題に対する取組、地域のサークルによる学校ボランティア受入等の活動を計画中である。年度内に試行し、次年度に引き継いでいく。	・ホームページでの情報発信に力を入れる。年度当初に進路だより「コンパス」に掲載する内容と発行時期、役割分担を検討し、班全体で見通しを持って情報発信を行えるようにする。 ・地域学校協働活動推進員の担い手となる人材発掘を行う。
５	学校管理　学校運営	同僚性と専門性の高い人材を育成しつつ、安心安全で、機能性柔軟性のある学校組織づくりを行う	①安全防災対策や感染症防止対策に努めるとともに、教職員の専門性の向上と不祥事事故防止に努め、保護者（ＰＴＡ）との信頼関係を築く。	①学校の運営組織（校務分掌）を見直した後の業務遂行状況の把握と改善 ②職員数が増えることにともなう風通しの良い職場づくり ③不祥事事故防止研修に取組む、教員名札の着用とさん付け呼称を推進する、外部講師の活用、職場討議の継続 ④学校の取組の情報発信	①働きやすい職場環境を整備できたか。 ②不祥事事故防止研修や職場討議を通して専門性を高めたか。 ③名札の着用とさん付けを推進できたか。 ④取組を情報発信できたか。	①管理用ロッカーや棚、プール清掃用物品等、校舎は古いが整理整頓清掃のための物品を購入し、少しずつ環境を整えている。 ②不祥事防止研修は毎月実施しており、職場討議改め「相模原養護いいね！」として各学部で取り組んで風通し良くなるよう努めている。 ③来校者への挨拶を呼び掛けている。その中で不審者対応事案３件迅速に実践できた。 ④生徒の活動や教員の研修の様子、給食の内容等が分かるように学校ホームページを毎日更新した。また、学校新聞を２か月に１回発行し、学校の活動の様子を発信した。	①教職員が働きやすくなる環境作りに今後も努めていく。喫緊は休養室の整備について衛生委員会と連携して実施したいが、予算や費用確保が課題である。 ②1/6（金）に各学部の取組を報告予定である。校長が毎月の職員会議で「いいね！」を紹介している。全校職員が気付いた点を紹介する仕組みに発展したい。 ③名札着用とさん付けの実施状況を確認する。 ④不審者対応の流れについて一部確認見直しを行い、マニュアルに反映していく。 ⑤委員の助言を受け、活動の様子について更新日を明記し学部別に改善した。外部の方にも分かりやすいページ作成が課題である。	**学校評価部会** ・教員アンケートでは低くなっている項目もあるのが気になる。仕事の引継ぎは企業でも重要なことなので、もしうまく引継ぎがされていないのであれば改善が必要である。また担任の声が学校運営に届くようなシステム化や改善も必要ではないか。 ・ホームページについて、大きく改善されて、学校の様子がよくわかるようになった。 ・教育活動を地域社会に開くということは、やはり学校からの発信だけでは足りないと感じる。また、コーディネーターとなる人が必要ではないかと悩むこともある。 ・先生方の精神衛生をどう守るかも重要である。先生方がよい精神状態であれば、児童生徒にも伝わり、よい影響を与えることになる。また学校だけでなく、先生方の家庭にも大きな影響を与えることになる。 ・保護者アンケートに先生があいさつしない、などの記述がある。あいさつについて教員がどう考えているかは重要である。 ・企業ではコミュニケーション能力が求められることが多い。そのためにも、まずあいさつは重要である。 **保護者アンケートより** 〇教員は、名札着用や挨拶を行い、マナーや言葉遣いは適切にしている➡　思う 76%、やや思う 21% 〈記述意見〉 ・先生の言葉遣いはとても気になっている。敬語を使わずタメロを使う方もおり、なぜか知りたい。	・「相模原養護いいね！」を毎月の職員会議で校長から紹介した。1/6（金）に各学部の取組中間報告を行った。次年度も継続していきたい。 ・衛生委員会で働きやすい職場環境について話し合い、男性更衣室に休養ベンチを設置できた。 ・毎月２回グループトーク研修型とワークシート型の不祥事防止研修を実施した。 ・各学部とも「さん付け呼称」を推進し、挨拶とともに定着してきた。 （教員アンケート→思うとやや思うの合計が約 93%。保護者アンケートの、思うとやや思うに合計は 97%）しかし、まだ左記の記述意見のようなケースがあるため重点的に継続していく。	・「相模原養護いいね！」を継続する際に①各学部の取組の検証②各教員が働きやすいと実感できる仕組み③負担感のない方法を検討する。 ・衛生委員会での検討検証の継続（休憩時の休養場所、湯茶室のルールと良い環境等） ・不祥事防止研修等の継続 ・学校ホームページにアクセスした人が目的ページにすぐ到達し情報を得られるよう、随時見直して情報を更新するなど、全校でホームページの向上に努める。 ・名札着用に力を入れ、挨拶・さん付け呼称と３点セットで４月から取組みたい。